

被害対策としての捕獲事業を実施する上での基礎知識

株式会社 野生動物保護管理事務所

奥村 忠誠・中川 恒祐

講演要旨

ニホンジカの被害対策として行う捕獲事業を効率的かつ効果的に進めるためにはシカの状況を把握し戦略的に捕獲を進めることが重要である。そのために必要な事前調査について説明し、捕獲事業の進め方について取りまとめた。

■ 捕獲事業を行うための手順と必要な事前調査

捕獲事業を行うためには、まずは広域で生息状況を把握し、その結果によって捕獲場所の優先順位を決めることが重要である。捕獲場所が決まれば対象地域内のシカの生息状況やシカの動きや餌や人へのシカの反応を把握し、どのような捕獲手法が最適か等の戦略づくりを行い、戦略に基づいた捕獲を実施する。捕獲の結果によっては、同じ場所で捕獲を継続して行うのかもしれないもしくは同じ場所でも戦略を練り直す必要があるのか等の検証を行うことになる。

■ 各種捕獲手法の特徴と留意点

シカの状況や捕獲場所によって最適な捕獲手法が異なるため、各種捕獲手法の特徴と留意点について説明をする。捕獲手法としては、銃器、わな（くくりわな、箱わな、囲いわな）について説明する。わなについては、わなの設置場所選びの注意点、誘引の重要性について解説し、銃器については、エサによる誘引の有無等により、猟法を分類し、各猟法の難易度やコスト、捕獲従事者に要求される技術について説明する。

■ 安全管理の重要性

安全管理では、発注者としての安全や法令の管理について、事業者としての安全管理や現場での実践的な研修の必要性、安全管理計画の作成について説明する。また、安全管理のための現場での事前調査として周辺環境の確認や人の出入りの把握、捕獲実施の周知などを行うことが重要である。更には、現場で銃器やわなを使用するときには最低限考慮しなければならない事項について説明する。

■ 他の被害対策手法との連携の重要性

捕獲は地域周辺の個体数を削減することで初めて被害軽減効果がみられるが、そこまで行くには多くの時間を必要とする。そのため、自然植生や植林地など守るべき食性が決まっているときには柵の設置を行うことで、早期に被害軽減や植生影響の低減を図る必要がある。